

研 修 区 分 表

平成30年3月2日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通 学	通 信	実 習	計	
1 職務の理解 (6時間)	6			6	到達目標 今回の講習の全体像を理解している。 どのような形で仕事をこなすかイメージできる。
(1) 多様なサービスの理解	3			3	講義の内容 カリキュラムの相互関連性の理解 小グループによる討議、発表(専門職の種類等)
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3			3	講義の内容 国の施策の動向、現在のサービスの理解 演習の実施方法 DVD: 施設・在宅等の実態を視聴 グループワーク: 介護職のイメージ等話し合う
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	9			9	到達目標 介護サービス提供の根底となるノーマライゼーション等考え方を理解している。
(1) 人権と尊厳を支える介護	3			3	講義内容 ICF、QOL、ノーマライゼーション
(2) 自立に向けた介護	4			4	講義内容 利用者本意、自立支援の理解 演習の実施方法 個人ワーク 介護予防と介護の違いなど。
(3) 人権に関する基礎知識	2	—	—	2	講義内容 人権に関する基本的な知識、高齢者虐待等
3 介護の基本 (6時間)	6			6	到達目標 仕事として介護する上での専門性、職業倫理の必要性を理解している
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5			1.5	講義内容 施設と居宅の特性の理解 多職種の連携のあり方 演習の実施方法 多職種の情報共有が利用者にとってどのようなメリットがあるか話し合う。
(2) 介護職の職業倫理	1.5			1.5	講義内容 法令遵守、利用者の個人の尊厳と介入等の理解
(3) 介護における安全確保とリスクマネジメント	1.5			1.5	講義内容 リスクマネジメント(安全確保、感染症対策等) 演習の実施方法 ヒヤリハットの必要性、活かし方等話し合う。
(4) 介護職の安全	1.5			1.5	講義内容 健康管理、ストレスマネジメント 演習の実施方法 腰痛予防など、実際に体を動かして、体感する。
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)	9			9	到達目標 介護保険、障害者総合支援法の理解、サービスの利用の流れの把握

(1) 介護保険制度	3		3	講義内容 介護保険制度のしくみ
(2) 医療との連携とリハビリテーション	3		3	講義内容 医師、薬剤師との連携に必要な知識 リハビリテーションの理念
(3) 障害者総合支援制度及びその他の制度	3		3	講義内容 障害者福祉制度の理念、障害者総合支援制度の概要 演習の実施方法 ICFとICIDHについて話し合い、特徴を学ぶ。
5 介護におけるコミュニケーション技術 (8時間)	6		6	到達目標 コミュニケーションのとり方は千差万別であり、それを意識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められることを理解し、最低限の行動例を理解する。
(1) 介護におけるコミュニケーション	3		3	講義内容 コミュニケーションの意味、種類、取り方 演習の実施方法 ロールプレイを用いた演習
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3		3	講義内容 記録の書き方、報告、連絡、相談の理解 演習の実施方法 ロールプレイを用いた演習 (カンファレンス)
6 老化の理解 (6時間)	6		6	到達目標 加齢に伴う心身の変化、疾病を理解している
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常	2		2	講義内容 老年期の発達の特性、日常生活への影響 演習の実施方法 体の部位別の老化について話し合う。
(2) 高齢者と健康	4		4	講義の内容 高齢者の身体的、精神的な変化と病気との関連
7 認知症の理解 (6時間)	6		6	到達目標 認知症を理解しており、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解している。
(1) 認知症を取り巻く状況	1		1	講義の内容 認知症ケアの理念、視点
(2) 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	1.5		1.5	講義の内容 認知症の概念、症状、治療、健康管理
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	1.5		1.5	講義の内容 認知症の人の心理・行動 認知症の利用者への対応
(4) 家族への支援	2		2	講義内容 認知症の受容課程での援助、レスパイトケア 演習の実施方法 事例検討
8 障害の理解 (3時間)	3		3	到達目標 障害の概念、障害者福祉の基本的な考え方を理解している
(1) 障害の基礎的理解	1		1	講義の内容 障害の概念、障害者福祉の基本理念

(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理、行動の特徴、かかり支援等の基礎的理解	1		1	講義の内容 身体障害、知的障害、精神障害、その他
(3) 家族の心理、かかり支援の理解	1		1	講義の内容 家族の支援、障害の受容支援 負担軽減 演習の実施方法 障害の受容の課程について、話し合い理解する。
9 ところとからだのしくみと生活支援技術 (75 時間)	68	7	75	到達目標 介護技術の根拠となる人体の構造や機能の知識習得、安全な介護サービスの提供方法の理解、基礎的な介護ができること その人の自立・自律を尊重し、その人の在宅、地域での生活を支える介護技術や知識の習得
(1) 介護の基本的な考え方	4		4	講義の内容 倫理に基づく介護 法的根拠に基づく介護 演習の実施方法 事例に基づいて検討
(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解	4		4	講義の内容 記憶のメカニズム、感情とそれに付随する概念、思考と認知の概念、生きがいと意欲、自我の再生支援、存在価値の喪失感 演習の実施方法 個人ワーク（喪失感を考える）
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4		4	講義の内容 健康チェックとバイタルサイン、骨、関節、筋肉の知識、神経系の分類、自立神経と内部器官に関する知識 演習の実施方法 事例検討（身体変化に結びつく気づき）
(4) 生活と家事	7		7	講義の内容 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識 演習の実施方法 事例検討（一人暮らしの援助を考える等）
(5) 快適な居住環境整備と介護	4		4	講義の内容 快適な居住環境の基礎知識、福祉用具の種類 演習内容 福祉用具を実際に触る
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4		4	講義の内容 整容に関する基礎知識 実技内容 実習生同士での清拭の練習、ビデオ
(7) 移動、移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	9		9	講義の内容 移動・移乗に関する知識 実技内容 実習生同士でのベッドへの移乗、体位変換、車椅子での移動、ビデオ
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3		3	講義の内容 食事に関する基礎知識 実技内容 実習生同士での食事介助、ビデオ

(9)入浴、清潔に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	4		4	講義の内容 入浴、清潔に関する基礎知識 実技内容 実習生同士の模擬洗髪、模擬入浴介助、ビデオ
(10)排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7		7	講義の内容 排泄に関する基礎知識 実技内容 実習生同士での模擬排泄介助、ビデオ
(11)睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	4		4	講義の内容 睡眠に関する基礎知識 実技内容 ビデオ
(12)死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末介護	3		3	講義の内容 終末期に関する基礎知識 演習の実施方法 事例検討
(13)施設実習			14	特別養護老人ホーム及び訪問介護事業所にて実際の現場での実習 食事、排泄、入浴、生活支援を中心に、実際に体験
(14)介護課程の基礎的理解	7		7	講義の内容 介護課程の目的・意義・展開、介護課程とチームアプローチ 演習の実施方法 アセスメント用紙を利用し、実際に実施
(15)総合生活支援技術演習	4		4	講義の内容 ある状態像を想定した事例をもとに問題点の抽出、サービスの展開を考える（数事例） 実技内容 数事例を通して 具体的に介護内容、留意点について考察する。
10 振り返り（4時間）	4		4	到達目標 学んだこと、今後も継続して学習すべきことについて振り返る。
(1)振り返り	2		2	講義の内容 研修を通じて学んだこと。今後継続して学ぶべきこと。
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2		2	講義の内容 継続的に学ぶべきこと。 演習の実施方法 グループ討議 発表 「専門職にもとめられていること」

※記載内容は、要綱の別紙2の内容を網羅したものとすること。

※講義と演習は一体的に実施すること。なお、科目9の(6)から(11)および(15)の実技演習は、実技内容等を記載すること。

※時間配分の下限は30分単位とする。